

在日朝鮮人資料叢書6

裴始美^{ペイシミン}（立命館大学「リリア研究センター専任研究員」）編・解説

在日朝鮮人
留学生資料

本資料の特色

- ▼一九二〇年代を中心とする朝鮮人留学生の動向を通観する初めての資料。
- ▼当該期の日朝関係、朝鮮人の日本認識、日本人の朝鮮認識を知る上でも欠かせない資料。
- ▼関東大震災期とその前後期に分け、各期の留学生の動向を時系列で理解できるように編集した。
- ▼朝鮮総督府や官憲の報告書、個人の書簡類、日本と朝鮮の新聞記事、雑誌記事等種々の資料を収録し、多角的な理解ができるようにした。
- ▼朝鮮の新聞記事については翻訳し、個人書簡も読み下し文として、広く利用できるように配慮した。

- 体裁 全3巻・A5版・上製クロス装・ケース入り
- 定価 本体54,000円＋税 ISBN978-4-89774-150-5
- 刊行 平成24年12月刊

在日朝鮮人運動史研究会監修

在日朝鮮人資料叢書

在日朝鮮人史資料集 全2巻

① 在日朝鮮人運動史研究会編『在日朝鮮人史研究』収録の附属資料を再編集。他の史料集では見ることのない在日朝鮮人・韓国人に関する資料を多数収録。 本体24,000円

在日本朝鮮人商工便覧 1957年版

② 在日本朝鮮人商工連合会編 樋口雄一解説 戦後初めての本格的な在日朝鮮人の商工業実態に関する全国的調査資料。なお、同連合会編『調査月報』の附属資料を付す。 本体6,000円

戦後在日朝鮮人人口調査資料集 全2巻

③ 長澤秀編 在日朝鮮人社会の構造を理解する上で不可欠な基本資料。戦後の朝鮮人集住地域に関する詳細なデータを提供。統計局の報告書としては未刊行の資料。 本体36,000円

在日朝鮮人教育関係資料 全3巻

④ 佐野通夫編 戦後（一九四五～一九八〇）の在日朝鮮人教育の歴史・背景と問題点を通覧でき、日本人教師の在日朝鮮人教育に対する取り組みや課題、そして当該期の日本政府の在日朝鮮人教育に対する政策や認識等を複合的に捉えることができる資料。 本体46,000円

朝鮮人強制動員関係資料 全2巻

⑤ 山田昭次編 アジア太平洋一五年戦争下（一九三七～一九四五）の強制動員朝鮮人鉦夫の実態を、裁判資料、戦時労働動員聞書資料、常磐炭礦朝鮮人関係資料、『労務時報』『日本鉱業新聞』所収朝鮮人関係記事等の新資料を中心に明らかにした。 本体24,000円

▼以下続刊予定（順不同、タイトルはすべて仮題）

- ⑦ 在日朝鮮人状況資料 福井讓編
- ⑧ 在日朝鮮人「帰還」資料 鈴木久美編
- ⑨ 在日朝鮮人生活保護資料 金耿昊編
- ⑩ 日本在留朝鮮人の出版物 小野容照編
- ⑪ 解放後在日朝鮮人文化運動資料 宇野田尚哉編
- ⑫ 戦前期在日朝鮮人特集記事集 外村大編

在日朝鮮人運動史研究会監修

在日朝鮮人
資料叢書

本叢書は今日まで蓄積してきた在日朝鮮人・韓国人に関する史料・記録・研究の成果と発掘をふまえて、広く在日朝鮮人・韓国人の問題に関心をもつ人々に活用され、一層の理解・認識を深めることができるように、在日朝鮮人運動史研究会の会員により多様な資料を提供することを意図して企画した。

「韓国併合」二〇〇年を契機に、真の日本と韓国・朝鮮の友好・交流を築いていくためにも、改めて資料で在日朝鮮人・韓国人の歴史を振り返ることの意義は大きいものと考ええる。

緑蔭書房

緑蔭書房

〒173-0004 東京都板橋区板橋 1-13-1
☎ 03 (3579) 5444
[消費税が別途加算されます]

裴始美編・解説

6 在日朝鮮人

第四回配本

留学生資料 全3巻

刊行の辞

日本の植民地支配下の朝鮮は、充分な教育を受けられる環境ではなかった。そのため、高等教育を望む朝鮮人学生たちは、経済力のあるものはもちろん、苦学を余儀なくされるものも、日本留学を目指して海を渡っていた。とくに三・一運動後の一九二〇年代には、関東大震災時の朝鮮人虐殺による激減期を除くと、東京だけで三〇〇〇人規模にまで上った朝鮮人留学生は、一九一二年に組織された学友会を中心に活動すると同時に、増加する朝鮮人労働者ともさまざまな組織を作り、民族運動・社会運動を繰り広げていた。

一方、朝鮮総督府は朝鮮人留学生の活動や朝鮮に及ぼす影響力などを警戒し、日本の官憲と連携して統制を強めつつ、体制内に包摂するための「支援」策も官民両方で展開した。このような環境下で、留学生たちは学業、生活・生計、運動などの面において、日本と複合的な関係を持っており、彼ら・彼女らの主体性もまた多様な形で現れた。在日朝鮮人運動団体がほとんど解散する一九三〇年以降は、統制や弾圧が激しさを増し、戦時体制になっていくにつれ、以前のような留学生の活動は困難となる。このような意味で、一九二〇年代は留学生を取り巻く状況も留学生社会内部も、もともとダイナミックに流動していた時期であった。

植民地期朝鮮人留学生は、朝鮮近現代史の教育、思想、運動、政治、経済など、ほとんどの研究分野において注目されながらも、関連資料が資料集として発刊されることはなかった。今回、一九二〇年代を中心とする「在日朝鮮人留学生資料」を通じて、収録資料が留学生とかかわる分野の研究者に読まれ、進展につながることを期待する。

裴始美（立命館大学コリア研究センター専任研究員）

▼収録資料（収録資料の一部）

第1巻

- I 留学生の基礎的統計資料
 - ・留学生総数と東京・地方の留学生数
 - ・留学生の居住地別統計
 - ・在京朝鮮留学生居住調査表
- II 関東大震災前の留学生状況
 - 1 全般状況
 - ・在内地朝鮮学生状況 朝鮮総督府学務局
 - ・一九二二年度在日本朝鮮留学生各学校卒業生一覧『亜細亜公論』
 - ・留日本朝鮮学生統計表
 - ・朝鮮留学生の過去及現在 柳泰慶
 - 2 学友会関係資料『学之光』抜粋
 - ・留学生消息（一九一四年～一九三〇年）
 - 3 ワシントン会議への抗議
 - ・太平洋会議二対スル在朝鮮人学生ノ態度ニ関スル件
 - ・太平洋会議対朝鮮独立運動計画ニ関スル件
 - 4 三・一運動記念集会関係
 - ・東京の三一記念、解散、衝突、検束『東亜日報』
 - 5 閔元植氏暗殺関係
 - ・閔氏暗殺の梁權煥に検事死刑を論告『読売新聞』
 - 6 東亜日報糾弾事件
 - ・東京留学生等東亜日報声討ニ関スル件
 - ・東亜日報社对在朝鮮人学生等ノ声討ニ関スル件
 - 7 仏教関係留学生
 - ・千代田女学校朝鮮女学生『中外日報』
 - ・日鮮仏教提携反対―鮮人学生の運動『中外日報』
 - III 関東大震災時期の留学生状況
 - 1 震災関連留学生情報
 - ・臨時在京日本留学生会ノ件
 - ・在東京罹災朝鮮人臨時救済会発起会ノ件
 - ・在東京留学生父兄会ノ件
 - 2 新聞に見る留学生状況
 - ・災害地学生取扱方針『朝鮮日報』
 - ・震災地留学生調査『朝鮮日報』
 - ・震災地留学生転学に対して 萩原学務課長談『朝鮮日報』

奨學部報

第五號

昭和四年五月十五日

昭和四年五月十三日印刷
昭和四年五月十五日發行
發行所 東京府下 淀橋町 角筈九四
朝鮮教育會 奨學部
編輯 服部 暢
印刷 朝鮮教育會 奨學部
（非）
（品）
（賣）
（集）
（國）
（文）
（字）
（の）
（題）
（の）
（部）
（の）
（奨）
（學）
（部）
（の）
（報）

特別入學の廢止

朝鮮學生に對する高等專門程度以上諸學校の特別入學は、別項の通りいよく五月一日以降廢止せらるゝ事になつた。然し特別入學制の適用は前號の部報にも指摘した通り、極めて制限せられた状況に在つたから、此度の改制に依つて、非常に重大なる影響を及ぼすものとは考へられない。

固有の言語を殊にし、學制の系統を異にする點に於て、朝鮮學生は、曾ては之を内地人並に取扱ふよりは、外國人に準じて取扱ふ方が適當と思はれた時代もつた。從來の特別入學制は此實狀に對應して頗る機宜に叶つた方法であつたらうが、今や事情は殆んど一變した。頃る朝鮮より渡來する學生で邦語に不自由なもの、如きは絶無である。殊に鮮内に於け

る學制整備の結果として、新來者の多数は内地の諸學校が要求する受檢資格を有つて居る。特別入學の廢止は則ち此變化せる事情に順應する所以であつて、朝鮮學生に對して諸學校の門戸を閉鎖すること、故ら之を狭めるとかいふ筋合でないことは、素より申す迄もない。今後の學生は鮮内に於て受けた教育の効果に信頼して堂々と豫定の方針を進むべく、又進み得ると信ずる。

然しながら他の一面から之を觀れば、入學競争に對する朝鮮學生の地位は、何としても多少の不利が免れない。彼等には先づ日本語の負擔がある。此負擔は當然の結果として他の學科に對する實力の涵養に何ほどの影響を及ぼさるを得ぬ。朝鮮學生の日本語は小學一年から當得したもので、殆んど母國人に異ならぬ程度にまで熟練精通して居るとはい

朝鮮留學生の過去及現在

柳 泰 慶

前號に於て留學生の出身道別及在籍學校別を調査し、之が統計表を發表したが、是によつて、日本に於ける朝鮮留學生の能率を略解された事であらうと思ふ。然し彼等が留學の淵源、及その變遷現狀に就いては、未だ殆んど知る處が無い事と思ふ。従つて彼等に對する待遇方法、或は救済等に着目し、同情する者のないのは當然である。しかし是は徒らに等閑に附して置くべきではなくして、相當考慮せねばならない事と思ふ。此處に留學生の事情を述べる事にした所以である。

一 往昔の留學生及其起源

想ふに過去幾千年前、三國時代から、日本は朝鮮の文物風習を習ふ可く、毎年幾百の留學生を新羅及百濟高句麗に送り、之が指導研究を依頼した

事は、歴史の上に、明白なる處である。之に反し、朝鮮は、地理上日本と唇齒の關係に在る處から、交際の必要を感じ、官吏を派し、日本語を習得せしめ外交上の便利を計つた。今から約一千二百三十餘年前、新羅沙湊金君弼等が、使節として日本に渡る時言語習得生として二三名の留學生を連れ來り、日本語を練習せしめて後七十八年頃新羅級湊の役にある金貞菴が又使として習言者二人を連れ來つた事がある。降つて近世に至つては、壬辰即文祿年間に今の慶尙南道首府である晋州の人康遇聖が留學生として鎌倉京都等の地に前後十餘年間留學し、「捷俗新語」なる十二卷の書を著し、其後洪舜明なる人は倭語朝鮮解三卷を著した事がある。然し此時は前述の目的で言語を習得するに止まり、學術文明を研究したのではなかつた。當時の日本は、

第2巻

IV 関東大震災後の留学生状況

- 1 全般状況
 - ・内地に於ける朝鮮人 一・二・三『警務彙報』
 - ・在内地朝鮮学生在学の状況『文教の朝鮮』
 - ・在京朝鮮人の現在とその将来『東洋』
 - ・在京朝鮮留學生概況 内務省警保局
 - ・在内地朝鮮学生調 朝鮮教育会奨学部『文教の朝鮮』
 - ・在神半島民族の現状 神戸市役所社会課
 - ・東京朝鮮人諸団体歴訪記『朝鮮思想通信』
 - ・在内地朝鮮学生状況調 朝鮮教育会奨学部
 - ・鮮人学生生徒の思想的事件 文部省学生課
- 2 学友会関係資料
 - ・東京留学生―学友会總會『朝鮮日報』
 - ・革命記念日に檢挙された朝鮮女學生を拷問『東亜日報』
- 3 仏教関係留學生
 - ・朝鮮仏教大会の新留學生運動『中外日報』
 - ・捨鉢に進路をとる朝鮮苦學生『中外日報』
- V 朝鮮総督府の留学生政策
 - 1 一九一〇年代の留学生政策
 - ① 留学生規定
 - ・朝鮮総督府留學生規定（朝鮮総督府令第七八号）
 - ② 監督体制・留学抑制
 - ・留学生監獄『新韓民報』
 - ・留學生の現状『毎日申報』
 - ・私費留学注意『毎日申報』
 - ・社説 朝鮮留學生『毎日申報』
 - ・在留朝鮮人学生名簿調製ニ関スル通牒
 - ・留學生宿舍問題『毎日申報』
 - 2 一九二〇年代の留學生政策
 - ① 留學生規定・指導
 - ・在内地官費朝鮮學生規程（朝鮮総督府令第一七〇号）
 - ・在内地朝鮮學生ノ取扱ニ関スル件（官通牒第四八号）
 - ・在内地朝鮮學生指導ニ関スル施設『文教の朝鮮』
 - ・日本留學生給費制撤廢『東亜日報』

② 寄宿舎問題

- ・督学部寄宿舎『東亜日報』
- ・朝鮮総督府経営の東京留学寄宿舎『朝鮮日報』
- ③ 学生の救済運動
 - ・蛭雪会の近況『毎日申報』
 - 3 『奨学部報』第一号ノ第一八号

第3巻

VI 日本人の「支援」団体

- 1 向学会
 - ・留学生の為に新寄宿舎『毎日申報』
 - ・朝鮮留學生のために計画中であつた寄宿舎開始『毎日申報』
- 2 輔仁学舎
 - ・輔仁会組織『毎日申報』
 - ・朝鮮留學生を收容 輔仁学舎の昨今現況『毎日申報』
 - ・輔仁会給費生と殺到する志願者『朝鮮日報』
- 3 麗澤会
 - ・麗澤会創立の趣意『斉藤実関係文書』
 - ・麗澤会ニ関スル件 京城本町警察署
- 4 亜細亜公論社・大東公論社
 - ・本社の事業『亜細亜公論』
 - ・大東公論社社告『大東公論』
- 5 鶏林莊
 - ・細井肇発斉藤実宛書簡
- 6 個人の支援
 - ・松浦淑郎発斉藤実宛書簡
 - ・斉藤実発阿部充家宛書簡
 - ・阿部充家発斉藤実宛書簡
 - ・中野正剛発斉藤実宛書簡
- 7 自彊会関係資料
 - ・自彊会関係資料
 - ・創立十周年記念誌
 - ・自彊会事業報告及拡張案
 - ・財団法人自彊会経過報告書
- 8 力行社関係資料
 - ・事業概要（大正一三年～昭和四年） 力行社
 - ・昭和七年度事業報告書 力行社
 - ・「力行之光」第七号（昭和九年）・第一七号（昭和一〇年） 力行之光社

